

図書館たより

号数	第74号
発行日	昭和61年10月15日
編集発行	島根県立図書館
	松江市内中原町52 TEL (0852)22-5725
印刷	島根印刷株式会社

玉湯町

親子読書を通じ、親子のふれあいと本に親しむしつけを育む。それがひいてはその家庭の文化を回復していくことだ。これは某講師から聞いた言葉です。

本町では子供の情操教育の一環として、昭和58年度より県立図書館の親子読書事業のモデル指定を受け、推進を図ってまいりました。その結果、町内の保育園、幼稚園では90%以上の園児の家庭で読み聞かせが実践されるまでになりました。また、絵本の読み聞かせボランティアが出現するなど、一応の成果を修めてモデル指定が終了しました。そこで、今後この活動をさらに継続していくとともに、住民の読書熱を更に高揚させていくために61年度から図書センターの指定を受け、5,000冊の図書の貸与を受けました。

中央公民館図書室は玄関に入って正面に位置し、一番わかりやすい場所にあります。面積は54.41㎡で蔵書冊数は2,900余冊あります。60年度の貸出冊数は3,416冊で、1日平均11.7冊となっています。玉湯町の人口は6,200人、以前から人口1人当たり1冊の蔵書を目指してまいりました。今年度から図書センターのお陰で念願叶い、書棚もぎっしりと図書でうまりました。これからの課題はこの本をいかに活用していくかどうかです。

第一に読書施設の拠点たる中央公民館図書室を整備し充実させていくことです。従来不足していた分野の本が増し、住民の多様化したニーズに応えることが必要です。

第二に町内の小単位地域に文庫を設置し、遠方の中央公民館へ行かなくても利用できるようにすることです。「えんがわ文庫」の名称で、PTAの役員宅に配本します。

第三に「公民館たより」、有線放送などでPRに務めたり、読書サークルを育成し、読書への関心を高めることです。そうすることによって町立図書館建設の気運がもり上がることを念願しています。

(玉湯町教育委員会)

川本町

昭和61年4月より川本中央公民館図書室が川本町図書センターとして新しく生まれ変わり、県立図書館より貸与冊数(4,000冊)を含め蔵書冊数9,659冊、町民1人当たり1.6冊で開館しました。貸出冊数1人5冊

以内、貸出期間15日以内、開館日は年末年始、土曜日の午後、第1・第3・第5日曜、祭日を除く日です。

開館してから5ヵ月間に1,114冊(成人用図書460冊、子供用図書654冊)の貸出しがありました。利用者の多くは小学生の子供達です。中学生、高校生の利用は夏休みに限られており、平日は利用者が少ない現状です。多くの人に利用していただくために、川本北公民館に新しく図書室を開設し、4,000冊の本を設置しました。又、川本農村勤労者福祉センターへも新しく500冊の本を配本しました。親子読書の普及維持のため、町内各保育所4ヵ所、幼稚園へも絵本を配本しております。町内12ヵ所の理容院・美容院、高令者センター・老人福祉センター・老人ホーム・病院等への配本も計画中です。

親子読書が各保育所・幼稚園で定着化し、その重要性についての認識も大分高まってきましたが、新入園児の親への啓蒙や親子読書で育った子供達への子供読書活動への発展が必要で

そのためにボランティアの養成、指導者の発掘へと積極的に取り組む必要があります。

生涯教育がさげばれている今日、その一環として図書館活動を関係諸団体等の協力を得ながら内容の充実、広報活動、新着図書の紹介、図書だよりの発行等読書普及活動に努めたいと思っています。

(川本町教育委員会)

新図書センター紹介



松江市立図書館

松江市西津田町6-5-44
TEL (0852)27-6000

本年6月1日、松江市に40年ぶりに市立図書館が誕生しました。

松江市では明治32年、私立図書館が設立され大正8年市立図書館として発足し、戦後建物疎開などで昭和21年県立図書館に移譲され、現在に至っており新しい図書館は2代目になります。

パイプオルガンを備えた音楽ホールと広場を介して対話のある配置とし、松江市総合文化センターとして国際文化観光都市の新しい風影となるよう建られています。

内部は開架室、閉架書庫、郷土資料室、青少年室視聴覚室がありAVコーナーには67インチの大型テレビが設置され、AV室は12のブースが備えられ、自由にプログラムを選び視聴できる設備になっています。

開架閲覧室にはオープン時5万冊を準備し、一般と子どもの本を同じフロアーに配置しているため家族づれの利用が目立ちます。なお、資料整備計画では18万冊所蔵することを目標としています。

郷土資料室は小泉八雲の資料を初め5,000冊を目標に資料を集め現在1,600冊を収集していますが寄贈や寄託など市民の協力で少しずつ整備が進んでいます。市内の古墳から発掘された埋蔵文化財も古くて新しい資料として展示しております。

カウンター業務の貸出・返却・検索など資料管理業務はコンピューターシステムを利用し業務の簡素化と利用者へのサービスに務めております。

6月から3ヵ月間の利用登録者数は松江市の人口138,400人(5/31現在)の16%で32,500人(9/21現在)となり、日曜日の来館者は1,300人、土曜日は800人以上の利用者がありました。平日は200人～500人位の小学生、中学生が午後3時頃から利用しはじめ、閉館時までにごわいます。又、音楽ホールや会議室が図書館と併設されているため、それぞれの利

用者がお互に影響しあい相乗効果を表わしています。資料の利用冊数は1人平均1.7冊で分類別にみると文学が一番多く、利用の53.6%をしめ、芸術、自然科学、歴史、工学、社会科学、哲学の順に利用されています。

図書館周辺の橋南地区市民の利用にとどまらず、全市的に文化活動の拠点となり親しみやすい図書館として活用されるよう開館記念行事を計画しました。

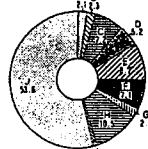


「松江城と旅」「絵本と原画展」「手づくりの紙と布の絵本展」「今と昔と世界の教科書展」を開催しました。引き続き9月17日から10月29日まで小泉八雲をしのいで、ヘルンを講じるスピーチコンテストとヘルン讃歌演奏会を開催し、又八雲のひ孫である小泉凡さんと子供達が語る会、八雲を語る演奏会、八雲の作品、資料の特別展など松江市独自の市立図書館まつりを企画しました。親子読書活動のリーダーとなっている人達や婦人ボランティアの人達の協力で、身体の不自由な人の介助や子供達への絵本の読み聞かせや資料の整頓などお手伝いいただいています。「市民はボランティア」の心が活動を通じ広く子供達、市民に伝わることを願いながら協力してもらっています。立体童話、手づくり絵本も市民の方の協力で支えられ活動が続けられています。

誕生したばかりの図書館がこうして市民の暖かい協力で育ちつつあります。広く市民の本棚として、活用され生涯教育の場、コミュニケーションの場として生かされるよう願っています。

- 開館日・日曜日～木曜日
午前9時～午後6時まで
- 貸出冊数 1人・2冊まで2週間
- 団体貸出 構成人員1人当2冊まで3週間
限度冊数・30冊

利用状況



1986年9月現在
23,500人

A	総記	2.1%
B	哲学	2.3%
C	歴史	7.2%
D	社会科学	5.2%
E	自然科学	8.7%
F	工学工業	7.1%
G	産業	2.0%
H	芸術	110.5%
I	図学	1.3%
J	文学	53.6%

在)となり、日曜日の来館者は1,300人、土曜日は800人以上の利用者がありました。平日は200人～500人位の小学生、中学生が午後3時頃から利用しはじめ、閉館時までにごわいます。又、音楽ホールや会議室が図書館と併設されているため、それぞれの利

最近の県内出版状況から

郷土資料室

61年度上半期の収書からまず、去年からブームが続いている考古学関係の出版物があげられる。「荒神谷遺跡発掘調査概報No2」県教委編刊。「銅剣358本銅鐸6個銅矛16本の謎に迫る(斐川町シンポジウム)」「日本海沿岸地域の文化交流と地域振興(環日本海松江国際シンポジウム)」「島根県埋蔵文化財調査報告No11」県教委編刊。

地域的なものとして、「出雲平野の集落遺跡No2」出雲考古学研究会編刊、「山地古墳発掘調査報告書」「塩冶地区遺跡分布調査No1」「天神遺跡発掘調査報告書No4」以上出雲市教委編刊、「比久尼原横穴群緊急発掘調査報告」「郡屋敷古墳」以上仁多町教委編刊、「殿河内遺跡発掘調査報告書」三刀屋町教委編刊、「隠岐黒木の遺跡」島前教委編刊、「出雲玉作跡保存管理計画策定報告書No1」玉湯町教委編刊等が出版された。

又、最近話題になっている一連の観光キャンペーンにあわせて、山陰紹介の資料もあいついた。「山陰大好き」TSK編 平凡社刊、「島根県ふるさとの散歩道」島根県観光連盟編刊、「松江の旅」「松江文学への旅」以上松江市観光連盟編刊。

さらにふるさとのまちなみ・活性化の資料として、「伸びゆく島根21世紀計画」「21世紀島根国際交流ビジョン」「むらおこしまちおこし実践活動促進事業」以上島根県編刊、「未来に希望をひらく石史」市町村振興協会編刊、「神話センター出雲神楽殿の建設」SIリサーチ刊、「島根県の民力'86」出雲経済経営研究会編刊も出版されている。

また、歴史書では、家の歴史を研究した「遠い山脈」山根福一編刊、「十藤の総家」周藤千代一著 鳥影社刊があり、地方史誌では、「布施村誌」「柿木村誌第一巻」「もりやまNo1」美保関町森山公民館編刊、「城下町を歩くNo1」松尾寿著 たちら書房刊、「大社町史研究紀要No1」「隠岐国維新史」内藤正中他著 山陰中央新報社刊があげられる。中央からは「三百藩主人名事典第4巻」新人物往来社

編刊が出版された。

社会福祉関係として、「島根県社会福祉史」「島根県社会福祉事業団創立20周年記念誌至福」が出版され、労働組合史として「松江市職員労働組合史1977～1985」が出版された。

教育関係では、「益田農林高等学校六十年史」「はるかなり山の学校—江南村尋常高等小学校記念誌」「幼幼百年のあゆみ」「島根医科大開校5周年記念誌きつき3号」「めぐりあい—岡正先生御退任記念文集」「弱い自分にかつ子に」池淵栄助著 たちら書房刊、「暁鐘—田所公民館」が出版された。

民俗関係でも、「頓原町民俗資料館解説書No3」「牛尾三千夫著作集第二巻大田植の習俗と田植歌」「佐田町の民話と民謡」佐田町編刊、「ふるさと山陰の祭り」平野勲著 毎日新聞松江支局刊、「江の川の漁撈」広島県立歴史民俗資料館編刊が出版された。

自然、工学関係では、「湖底をさぐる」徳岡隆夫他著 たちら書房刊、「島根原発(上)」赤塚夏樹著 たちら書房刊、「石見銀山関連遺跡分布調査報告書」「石見銀山関係資料調査報告書」「江の川流域自然環境調査報告書」以上島根県編刊が出版された。

産業関係では、「国営農地開発事業営農推進の概要'86」「企業年鑑'86」が出版された。

文学関係では、「島根年刊詩集'85」島根県詩人連合編刊、「合同句集風土記」「風—合同句集No1」「門脇無風遺句集なかうみ」「島根県川柳作家年鑑No7」「泰山木の花かげ—歌集」等があり、江の川をテーマに創作された「江の川」近本いさむ著 武蔵野文学舎刊も出版された。

他の分野では、「島根県警察史 資料編」が完成し、「日本聖公会松江基督教会百年史」「語り継ぐ—一戦後四十年の手記から—」NHK松江放送局編刊、「止過—瑞穂町の戦争百談百首」「小村大雲遺作集」「古事記参究」加藤義成著 素行会刊等が出版されている。

日原読書会

感想文を求めないで、本はよんでも読後感想は口で話そうというのをモットーにいつのまにか年を重ねた私達の読書会です。

最近の活動としましては、年2回の映画会は益田のライブラリーを利用して「歌舞伎の世界」「京都の文化遺産」等、なかなか実際に見にいけないものを、映画で楽しみます。昔話も1本入れて息をぬきます。

年1回の日帰りえんそくは、他町村の資料館見学や旧蹟をたずねています。その他絵本をペープサート(紙人形劇)につくって図書館で月1回行っている子どものつどいで演じたりします。暮には版画の年賀状作りもいたします。私の町には町誌の編さんをなさったり、沢山の著書を出しておられる民俗学に造けいの深い大庭良美さんという方がおられますのでお話を聞かせていただくこともあります。

現在は、大庭さんの随筆集である「緋駒」を会員の愛読書にとりあげて味わいながら朗読の練習をしております。大庭さんの著書は、郷土の歴史、

人物史、民話等どれを読ませていただいても自分の村の出来事を素朴に暖かい気持ちでかいておられますので、共感を呼び、なつかしい気持ちでいっぱいになります。「緋駒」は大庭さんの子どもの頃の事から最近までの身の様子か18年の長い間にわたってかきつづられてあり、朗読をしてみると、一つの言葉が目で読むのと口で読むのとの違いがあり、大庭さんを前に本当の読みかたを教えていただいたり、書いてある話のその後を聞かせていただいて、益々興味をもってこの本を愛読しております。日原町には、独居老人の方も多いので、朗読が上達しましたら、なつかしい話を聞いていただくようテープをお送りしようと思っております。

読書会という名におびえて(実はおしゃべりグループでしかないのですが)会員はいつも10名位です。手探りながら、いつまでも続けていこうと話しております。

グループ名 日原読書会
 会員数 10名
 代表者 沖田 明子

読書会グループ紹介 私達のグループと読んだ本 ②

NEWS

★市町村読書普及研修会開催

読書普及活動の推進のため毎年、東部と西部の二会場で開催されている。本年度は県立図書館と浜田の西部読書普及センターとで8月6日と21日に県読書推進運動協議会主催、県公共図書館協議会共催で開催された。

午前中は広瀬小校長荒川勲先生の「子供と読書」という演題で講演があった。我が子の子育て体験をふまえながら、読書の必要性と子供を読書好きにする手だてなどを話され、良い読書体験をさせることが大人の役割であると結ばれた。

午後は研究協議があり、モデル指定が終った親子読書のまとめと子供読書会の現状や問題点について話しあった。



★昭和61年度中国地区公共図書館研究集会

9月24、25日の2日間にわたって、「子供の読書活

動の推進を図る」というテーマで中国5県の図書館職員関係約110名が集まって研究会が行われた。

初日は前図書館読書普及指導員であった伊藤ミキ子先生を講師に図書館がとり組んできた親子読書活動を中心に「子どもと本をむすんで」という演題で講演があった。続いて各県より事例発表があり、2日目にはこれについて研究協議が行われた。

お知らせ

—中央講師による子供読書講演会ご案内—

幼い頃、お母さんに絵本を読んでもらったことや友達と一緒に読んだ本の思い出は子供のすこやかな成長に大きな役割を果たします。本の好きな子供に育てるため下記2会場で子供読書の講演会を開催します。多数ご参加下さい。

演題 「子どもと読書」

講師 日本子どもの本研究会理事 渋谷清視先生

	松江会場	浜田会場
日時	昭和61年11月7日(金)	昭和61年11月8日(土)
会場	島根県立図書館第一学習室	西部読書普及センター(浜田教育センター大会議室)
日程	9:00 受付 9:30 講演 11:30 質疑・討論 12:00	
参加申込先	島根県立図書館 松江市中環町52 TEL(0852)722-5730	西部読書普及センター 浜田市長沢町1550-1 TEL(0855)273-6765